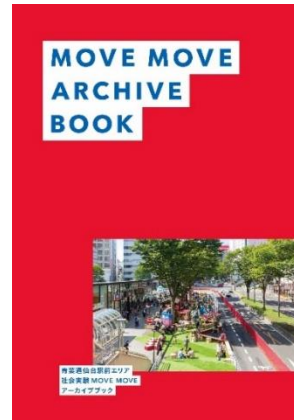


今後の青葉通あり方検討の 進め方と体制について

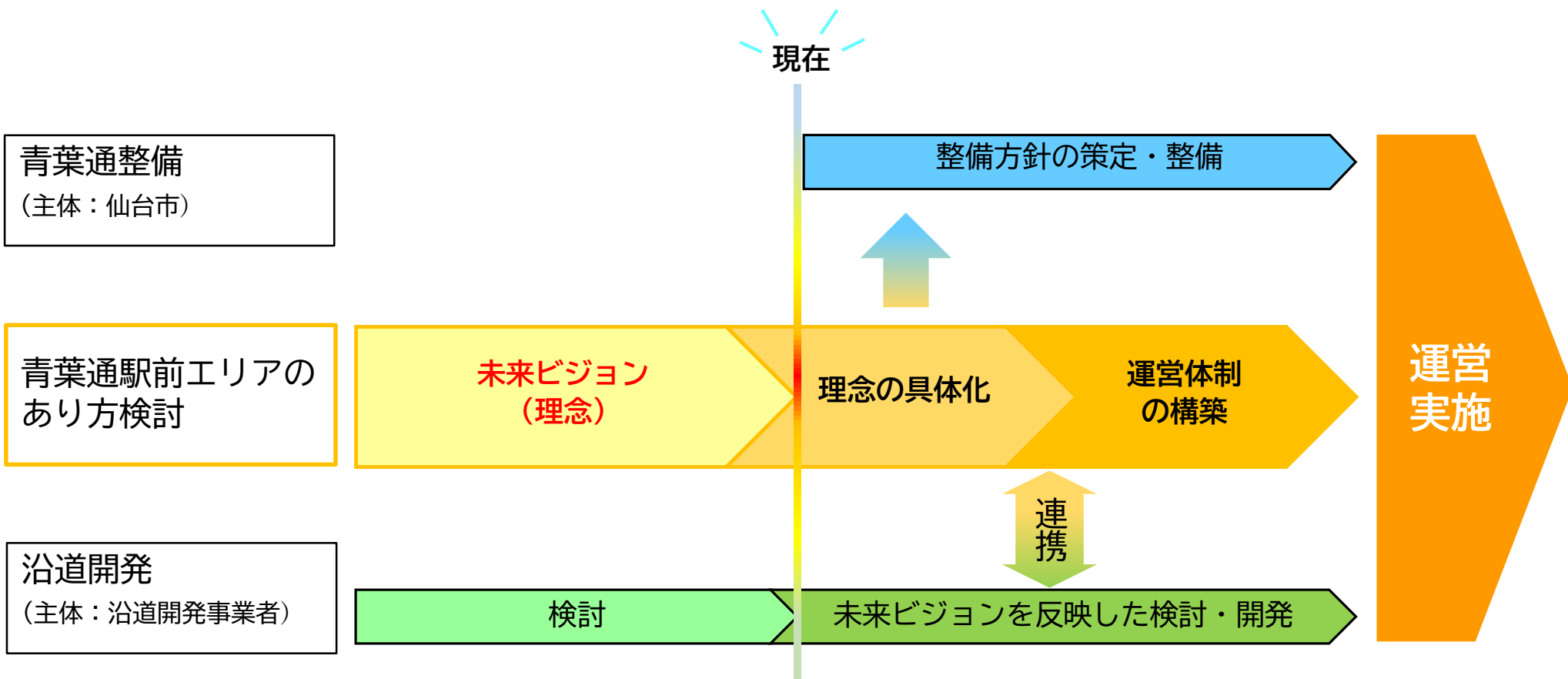
これまでの主な出来事

- 令和3年6月：あり方検討協議会立ち上げ
(第1回協議会)
- 令和4年9月～10月：社会実験の実施
- 令和6年6月：社会実験の
アーカイブブック完成
- 令和7年3月：あり方検討協議会において
未来ビジョン案を策定
(→令和7年7月公表)
⇒駅前通～愛宕上杉通エリアを対象とした
今後のまちづくりの「理念」をとりまとめ。



未来ビジョン策定後の取組み

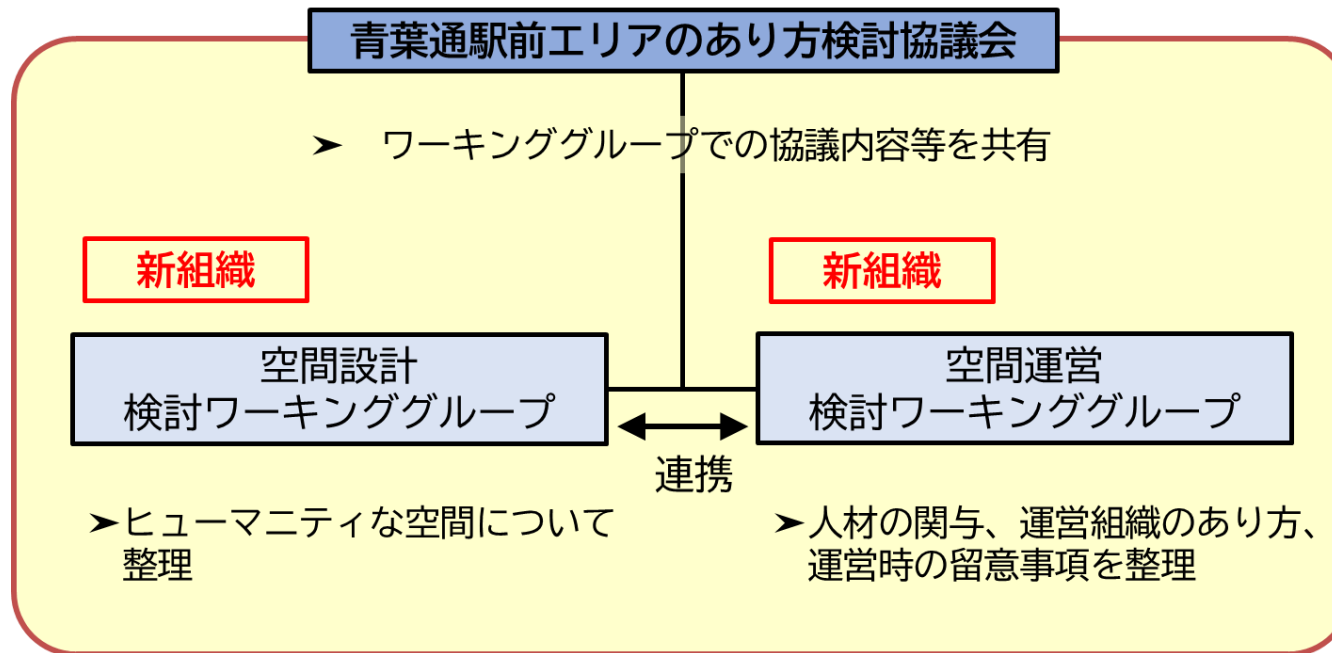
(R7年3月25日 第10回協議会資料1より)



未来ビジョン策定後の体制

(R7年3月25日 第10回協議会資料2より)

<協議会の体制図>



<2つのワーキンググループは密接に連携>

整備された空間を持続的に活用するには、運営面の理解、取り組みが必要不可欠であるため

⇒協議会の下に2つのワーキンググループを設置する体制ではなく、4ページ以降の進め方、体制にて具体的な検討を進めていきます。

青葉通のエリア価値向上のための今後の方向性

現状

- 仙台駅前エリアは魅力が減退しており、「仙台の顔」にふさわしい空間として魅力を高めていくことは喫緊の課題
- 仙台駅前エリアの他に、読売ビルなどにおいても民間開発の動きあり
- 市としては、道路空間再構築（駅前通～東二番丁通）の検討を今後行っていく段階

今後（方向性）

- 仙台駅前エリアを含む青葉通全体を対象に、コンセプトや目指す空間像を明確化→エリア価値向上の戦略を持ち、ビジョンを具体化し取組みを進めることが必要
- 仙台駅前エリアについては、公民が一体となり、個性や強みを活かした「仙台の顔」として目指すべき空間像を検討することが必要
- まちづくりの視点で望ましい沿道への機能誘導を含め、青葉通全体のあり方検討を進め、公民で共有することにより、全体最適の沿道開発や道路空間再構築を推進

⇒コンセプトや目指す空間像、エリア価値向上の戦略と具体的取組み、公民連携によるエリアマネジメント体制等について「（仮称）空間構想」としてまとめる

(仮称) 空間構想の位置づけ

- 空間構想の検討は、都心の中での青葉通の位置づけや、各エリアの個性・強みなどをもとにコンセプト等を決めていく必要があるため、**未来ビジョンを踏まえつつ青葉通全体として検討を進める。**
- あり方検討着手の契機の一つとなった青葉通まちづくり協議会の「ビジョン」等の考え方も踏まえ、内容を具体化。
→空間構想の策定は**まちづくり協議会と連携して行う**（クレジットを含め調整中）。

2018.9
青葉通まちづくり協議会
まちづくりビジョン策定
→仙台市に提言

沿道の企業等
49者で構成する任意団体



- **青葉通全体**のまちづくりの方向性の提案
- 駅前エリアの広場化等を提言
- 近年は公共空間利活用、プレイヤー支援等を実施

(仮称) 空間構想の位置づけ

【あり方検討協議会】

●未来ビジョン

- ・ビジョンの理念をベースに検討
- ・対象エリアの拡大
(仙台駅前エリア→青葉通全体)

【まちづくり協議会】

●まちづくりビジョン

●まちづくり方針 (ビジョンをベースに したまちづくり方針)

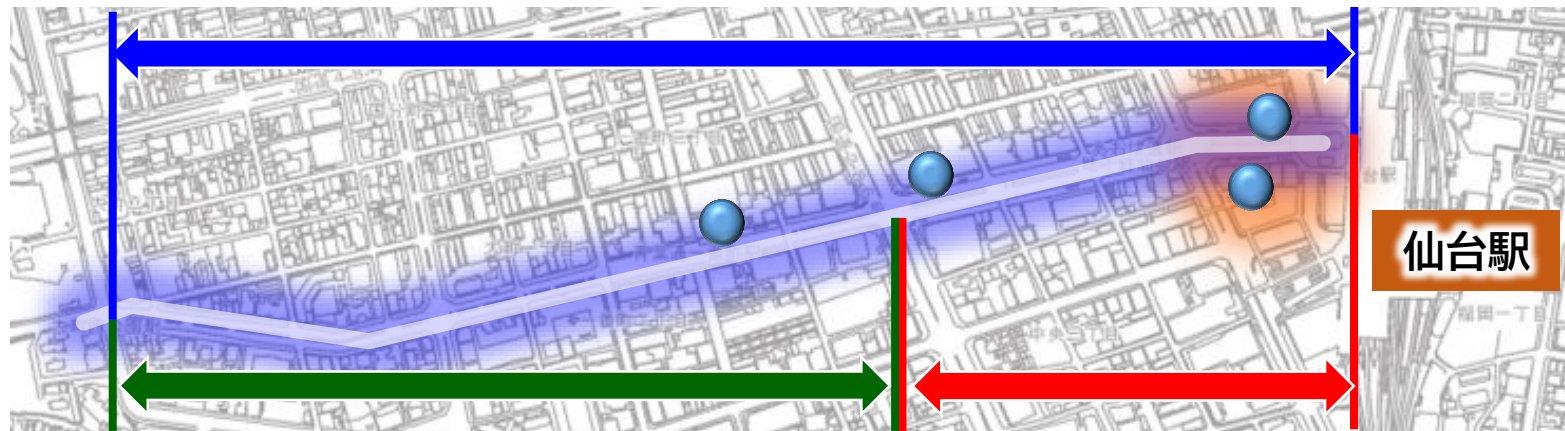
- ・社会状況の変化の反映
- ・機能誘導内容の具体化
- ・公民一体の空間構成の考え方の具体化
(道路空間再構成の考え方)
- ・公民連携による
エリアマネジメント体制の具体化

(仮称)
空間構想

(仮称) 空間構想の内容

<全区間>

- ① 目指すまちのコンセプトと空間像（エリアごとの機能、使われ方）
- ② 民間沿道開発への機能誘導
- ③ 持続的な空間活用、運営のための公民連携によるエリアマネジメント体制



<西側>

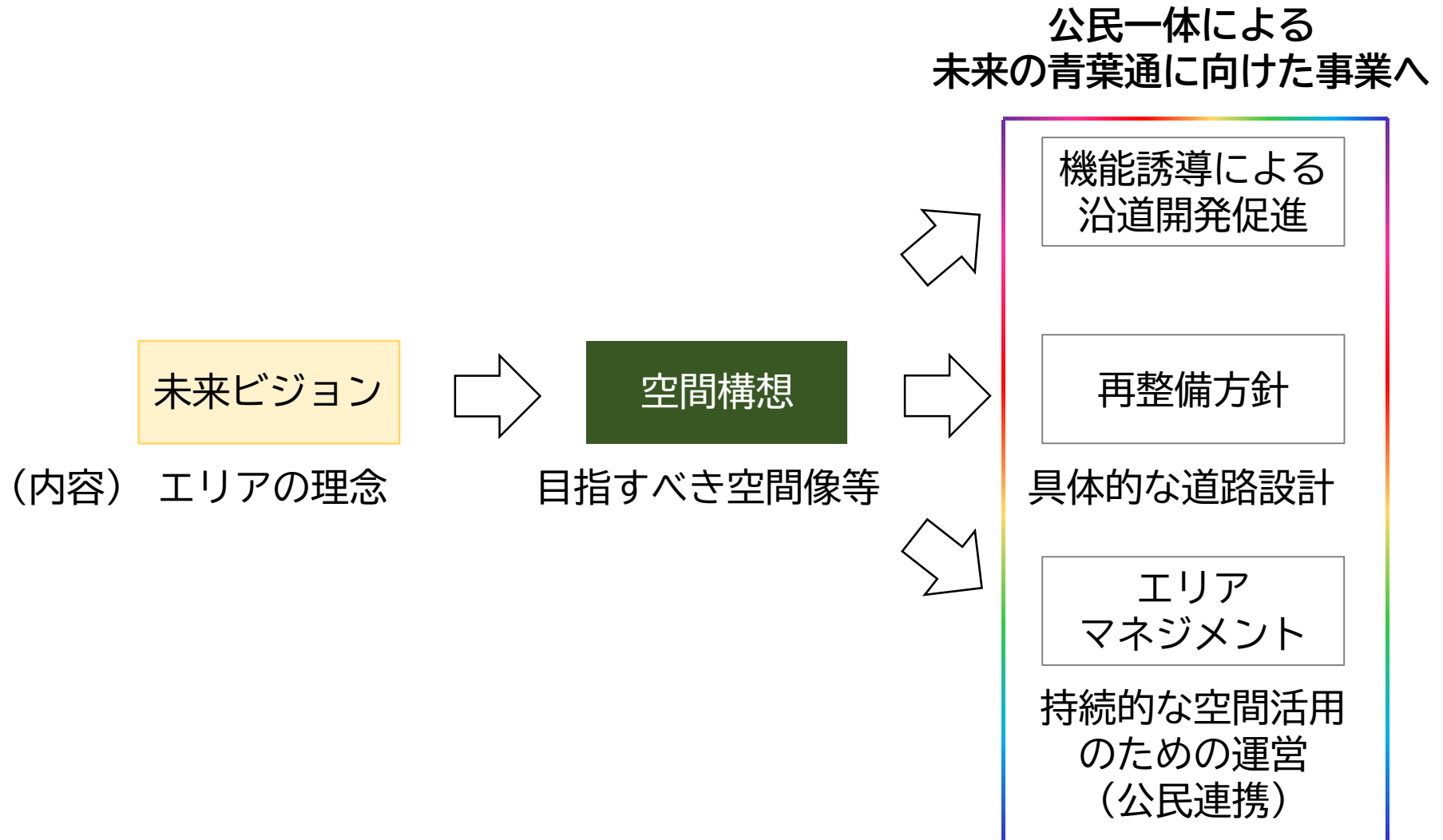
<東側>

- ④ 東側との連続性、
コンセプトや空間像を踏まえた
部分改良の要否の検証

- ⑤ コンセプト、空間像を踏まえた、
道路空間再構成の方針の検討

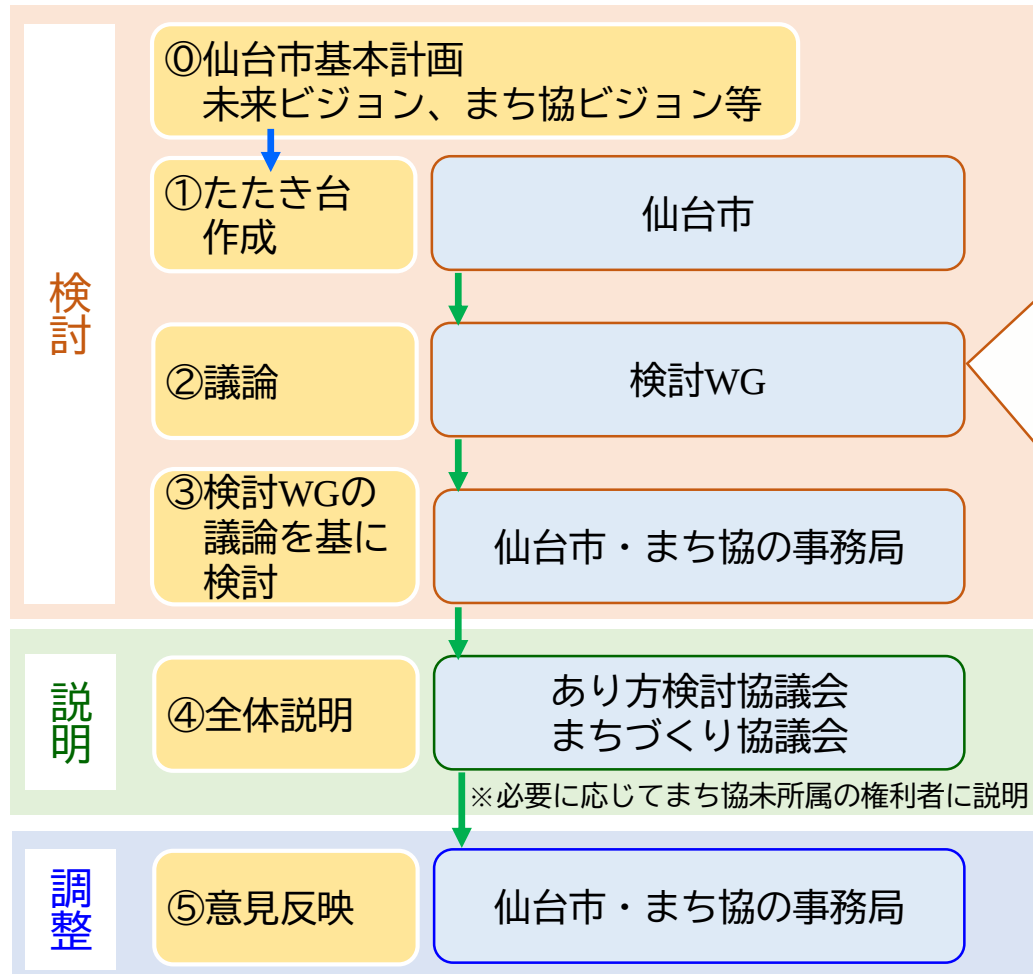
パースで
表現

(仮称) 空間構想策定後に目指すこと



(仮称) 空間構想の具体的な検討の進め方イメージ

- ・ 仙台市が中心となり策定に向けた検討を実施。
- ・ 仙台市がたたき台を作成→「検討WG」において議論。
(あり方検討協議会の委員も含め、今後メンバーの調整を行います)
- ・ 検討項目（コンセプト、空間像等）ごとに、協議会へ報告。ご意見をいただく。



「検討WG」とは

- ・ 実績や知見を有するまちづくり協議会の会員や、あり方検討協議会の委員（権利者）など青葉通の関係者で構成し、空間構想の検討を実施。
(12名程度を想定)

「検討WG」の必要性

- ・ 選抜された関係者が、青葉通全体としての位置付けを意識しながら、エリア価値向上の戦略や目指す空間像など（仮称）空間構想の策定に向けた具体的な内容を、少人数で活発に議論するため。

スケジュール（案）

- ～8月中：検討体制（WG）構築
- ～11月：コンセプト（青葉通全体、各エリア）の決定
- R7年度中：青葉通の各エリアで目指す空間像の決定
（公民一体の空間に誘導したい機能や使われ方）
- R8年度中：（仮称）空間構想の策定
⇒道路空間再構成に係る設計に着手